

【解説】

この回では、欲求がさまざまな思想や行動の背景にあることを学ぶ。説明は防衛機制が中心になるだろうと思われる。これを提唱したフロイトは、もともと人間の行動の背後に性的衝動があることを指摘した（反論もあるが、鋭い指摘ではある）。防衛機制は、単なる暗記に終わらせず、差別や偏見の温床にもなり得るなど、現代社会の政治的諸問題を考える際のヒントとして活用できるようにしておきたい。

○クレッチマーの3分類 細長：「分裂気質」、闘士：「粘着気質」、肥満：「循環気質」

○OM・ミード =マーガレット・ミード

○南サモアでの研究 サモアでは、①性が開放的で性犯罪がほとんどない。②子供にも年齢に応じて仕事をさせるので、無気力が長く続くことはない。③生活がのんびりしているので、欲求不満や反抗がない

○合理的解決 防衛機制の「合理化」と区別せよ

○防衛機制 「合理的解決」と「近道反応」の中間的存在。

○超自我 親のしつけが内面化されたもの。

○調整 リビドーは理性（自我と超自我）によって抑圧されているので、形を変えて満たそうとする。それが人間のさまざまな行動（芸術も含む）として出現する。例：喫煙は口唇期の欲求が満たされなかったことへの反動。このように何でもリビドー（性欲）に結びつけるのがフロイトの特徴である。こうして、人間が理性だけで生きているのではないことを示した。

○元型≡象徴的イメージ グレートマザー、影、アニマ（男性の心の中の女性性）、アニムス（女性の心の中の男性性）

本の紹介プリント

アンヌ・モレリ『戦争プロパガンダ 10の法則』草思社文庫

フロイト『なぜ人は戦争をするのか』光文社文庫

岸見一郎『アドラー心理学入門』KKベストセラーズ